

I 目指す学校

- (1) 「自主・自律」、「文武両道」、「伝統と創造」をスローガンに掲げ、高い志を胸に抱き、自らの夢の実現に向けて主体的に学び、国際社会で活躍できる人材を育成する学校
- (2) 生徒が、教科学習・キャリア学習・学校行事・部活動に積極的に取り組み、知性と教養を磨き、人間性を陶冶し、心と体をたくましく鍛える学校
- (3) 教職員が、学校経営計画を基に一致協力し、日々研鑽に励み、教科・学年・分掌が一体となった指導を展開し、生徒の夢の実現に向けて努力を惜しまない学校

【スクール・ミッション】

校風や伝統を継承し、探究心をもって高校生活に取り組むことを通じて、深く幅広い教養の修得、自主・自律の精神の涵養、個性の伸長を図るとともに、規範意識と倫理性、感性と美意識、主体的に行動する力、バランス感覚、体力や精神力を総合的に高め、社会に貢献できる将来のリーダーにふさわしい人間を育成します。

【スクール・ポリシー】

- (1) **グラデュエーション・ポリシー**〔育成を目指す資質・能力に関する方針〕
 - ・自ら学び、考え、実践する態度や力を育成します。
 - ・深く幅広い教養、規範意識と倫理性、体力と精神力を総合的に高めます。
 - ・社会への関心、コミュニケーション能力、問題解決能力などを身に付けた社会に貢献できるリーダーを育成します。
- (2) **カリキュラム・ポリシー**〔教育課程の編成及び実施に関する方針〕
 - ・2学年までは全員がすべての教科を共通に学習し、幅広い教養を身に付け、3学年からは個々の進路や適性に応じて、多様な選択科目を履修し、進路希望の実現に必要な学力を身に付けます。
 - ・各教科・各分掌が連携し、生徒の素質を伸ばし、希望進路の実現を図ります。
 - ・総合的な探究の時間を中心に各教科で主体的で対話的で深い学びを実践します。
 - ・部活動の時間も確保し、学業と部活動の両立を高いレベルで実現させます。
 - ・ICT機器を活用した新たな学びを実践し、授業の効率化を図り、密度の高い授業を提供します。
- (3) **アドミッション・ポリシー**〔入学者の受入に関する方針〕《本校の期待する生徒の姿》
 - ・校風や伝統を重んじ、自主・自律の精神を実践しようとする生徒
 - ・高い志を立て、その実現に向け、常に努力を重ねることのできる生徒
 - ・文武において切磋琢磨し、自己を高め、有為なリーダーを目指す生徒

II 中期的目標と方策

1 中期的目標

学習活動と特別活動は、本校の教育活動の両輪と捉え、全教員による組織的な指導体制を確立し、自主的・自律的に両立を図る力を伸ばし、社会のリーダーにふさわしいバランスの取れた人間を育成する。

伝統校の文化を継承・発展させ、先輩と後輩、在校生と卒業生の絆を深め、生涯「町高生」であることに誇りを持ち続ける教育を実践する。卒業後も母校を愛し、懐かしく思い出すような有意義な高校生活を提供する。都民が期待する「進学指導特別推進校」として、生徒一人一人にきめ細かな学習指導・進路指導を行い、国公立大学・難関私立大学等に現役合格できる学力を身に付けさせ、希望進路の実現を図る。

生徒の教養を深め、知的好奇心を育て、生涯学び続ける意思と基礎を身に付けさせる。

2 中期的目標とその達成に向けた方策

- (1) 「自主・自律」、「文武両道」、「伝統と創造」の精神を組織的・計画的に涵養する。また、規範意識・社会性・人権意識を高め、社会のリーダーにふさわしい資質・能力を身に付けさせる。
 - ① 学習と部活動・行事等における「切り替えと集中」を徹底させ、自律的に「文武両道」を達成させる。
 - ② 学習活動、学校行事及び部活動等の教育活動を通して生徒に自己肯定感をもたせる。また、成功体

験を積みませ、生徒に自信と誇りをもたせる。

- ③ 社会性やマナーを身に付けさせるとともに、伝統を重んじ、新たな文化の創造に取り組む精神を育む。
 - ④ 自他の価値観を尊重し、他者を思いやることのできる心を育てる。
- (2) 国公立大学や難関私立大学合格に向けた進学指導・学習指導体制を確立する。そして、高みを目指す指導を行い、生徒の能力を伸ばす。さらに、「進学指導特別推進校」の使命として、生徒の素質を開花させ、難関国立大学及び国公立医学部に挑戦できる学力を育成し、希望進路の実現を図る。
- ① 進路指導部が中心となり、各教科・各学年との連携を図り、3年間を見通した進路指導を確実に実践する。
 - ② 年間を通して自習棟や図書館等の開放を行い、自ら学習に取り組む自学自習の態度を身に付けさせると同時に、ともに受験に立ち向かう集団作りを行う。
 - ③ 「進学指導特別推進校」として生徒に必要な補習・講習を開講し、生徒の希望進路の実現を支援する。
- (3) 「町田高校グランドデザイン」に基づいた教育活動の実践を通して、学校の特色化を推進し、社会で活躍できる人材を育成する。
- ① 教養教育を重視し、人生を豊かに生きる素養を身に付けさせるとともに、多感な青年期に人生観・価値観・勤労観を形成させる。
 - ② ICTなどを活用した効果的・効率的な教育活動の推進を通して、主体的な学習態度や問題解決能力を育成し、生徒の学力を向上させる。
 - ③ 調査探究活動を通じて実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を設定し、主体的に問題を解決する力を身に付けさせるとともに、思考力・判断力・表現力等の能力の育成を図る。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策	(2) 重点目標と方策 [昨年度数値]
<p>1 学校経営・組織体制</p> <p>(1) 組織的・計画的な学校運営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的な学校運営の実現に向けて、学校経営指標（執務ガイドライン、OJT 診断基準等）に基づき、各自の経験や職層に応じた職務を遂行する。 ・PDCA（計画、実施、評価、改善）のマネジメントサイクルの機能を高める。 ・「町高グランドデザイン」を踏まえ、教育目標の実現に向けた取組を推進する。 ・教育課程を適正に実施するとともに、教科主任会を通して、教科を横断した学習指導に関する情報交換や連携を促進する。 ・企画調整会議と各分掌、経営企画室との連携を密にし、ボトムアップ機能を充実させる。 ・施設設備の安全確保に努めるとともに、効率的な自律経営推進予算の編成・執行・管理を行う。 ・人権尊重教育を推進し、暴言や体罰防止等に取り組む。また、サービス事故防止を徹底する。 <p>(2) 指定校事業、特色ある教育活動の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定校事業や連携事業等を活用し、特色ある教育活動を実践する。 ・すべての教育活動において、生徒の情報活用能力を育成するとともに、ICTを適切に活用した学習活動の充実を図るなど、スマートスクールを推進する。また、情報教育研究校の成果を積極的に発信する。 <p>(3) ライフ・ワーク・バランスの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校経営計画に基づき、各教職員が自身の役割や目標達成のための具体的な手立てを自己申告書に記載し、校長面接等を通じて共有する。 ② 分掌主任や事業担当者が的確に進行管理を行い、業務を効率的に遂行する。 ③ 学校評価や授業評価などを活用し、的確に現状と課題を把握するとともに、学校運営の一層の改善を推進する。 【学校評価：協議員の評価 100% [60.0%]】 【学校評価：回収率(保護者)80% [71.9%]】 ④ 学校経営計画の目標の達成に向けた各分掌等の評価を年3回実施し、現状と課題、達成状況等について学校運営連絡協議会などで報告する。また、学校運営連絡協議会の協議委員による提言や助言を、学校改善に活用していく。 【学校評価：入学満足度(生徒)90% [84.6%]】 ⑤ スクール・ミッション及びスクール・ポリシーに基づき、町田高校としての特色・魅力ある教育を実践する。 ⑥ 学事、徴収事務の定期的な点検・確認（執行状況の報告月1回）を実施する。 【契約集約率 60% [42.8%]】 ⑦ 年3回のサービス事故防止研修や業務点検等を行うことにより、個人情報や体罰等の防止対策など、職員のコンプライアンスに係る意識を啓発する。また、校内におけるサービスの厳正を図り、サービス事故の根絶を目指す。

し、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。

- ・業務の平準化に努め、教職員全員で分担して業務を遂行し、教職員全員の超過勤務の縮減を図る。

- ⑧ 「進学指導特別推進校」として、質の高い授業を創造するとともに、高い進路志望を実現する
- ⑨ 「東京都国際交流リーディング校」として、海外語学研修、長期短期の留学生の受入、次世代リーダー育成道場を活用した留学派遣、外国の学校との交流等を推進する。
- ⑩ 「理数研究校」として、企業や大学等と連携して理数に興味・関心をもつ生徒の裾野を広げる。
- ⑪ 会議の時間を短縮するため、会議時間の上限を設定するとともに資料の事前配布やICTの効率的な活用に努める。
- ⑫ 教職員の超過勤務削減と年休取得を促進し、男性職員の育児休業取得を奨励する。
【1月あたりの超勤45時間超15人〔18.5人〕】

2 学習指導

(1) 質の高い授業の創造と実践

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。
- ・適時適切な課題(宿題)を設定し、学習サイクルの定着を図るとともに、自学自習の取組を支援する。
- ・「英語教育研究推進校」として、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4技能をバランスよく育成する。
- ・文系・理系といった枠にとらわれないSTEAM教育を推進する。
- ・全ての教科において、言語活動能力の向上に取り組み、「思考力・判断力・表現力」を伸ばす指導内容・方法を研究・実践し、学力の向上を図る。
- ・一人1台の端末を活用することにより、一人一人の力を最大限に伸ばしていく。

(2) 「教科マネジメント」の確立

- ・3年間を見通した指導計画を作成し、指導と評価の一体化を目指す。
- ・定期考査・外部模試等の分析、生徒による授業評価等を活用し、授業改善に取り組む。
- ・学力スタンダードに具体的な学習目標を明示し、校内で組織的・効果的な指導を行う。

- ① 講義中心・板書中心の一斉授業から、ICTを活用し、アクティブ・ラーニングの手法などを取り入れた双方向授業への転換を図る。
【学校評価：協働的な学習(生徒)90%〔86.4%〕】
【学校評価：ICT活用授業(生徒)95%〔94.2%〕】
- ② 教科を横断した課題の見える化に取り組む。また、課題(宿題)の履行状態と目標の達成状況を把握し、課題の精選と縮減を図る。さらに、必達、上位、挑戦の段階に分けるなど、個々の生徒の状況に応じた課題の選択的付与を行う。

【自主学习時間の取組】

	平日	休日
1年生	2時間 35%〔28%〕	4時間 20%〔11%〕
2年生	3時間 35%〔16%〕	5時間 20%〔6%〕
3年生	5時間 60%〔22%〕	6時間 80%〔10%〕

- ③ 全教職員(年2回程度)が協力して自習棟及び図書館を自学・自習の場として活用させ、学習する集団づくりを推進し、授業外の学習時間を確保し、自学自習の習慣を確立させる。
【学校評価：自習棟の開放(生徒)80%〔82.5%〕】
- ④ CAN-DO リストを活用した指導と評価に取り組むとともに、外部試験による生徒の4技能別英語力を把握し、指導方法を改善する。また、全校生徒の60%以上に、実用英語技能検定準2級相当の英語力を身に付けさせる。
- ⑤ 教養教育を重視し、受験科目だけではなく、全教科・科目を満遍なく学習させる。
- ⑥ 記述力・論述力を測る定期考査を実施するとともに、定期考査問題の共通化を推進する。
- ⑦ 日々の教育活動において、全教員が既にアカウントを配布している統合型学習支援サービスを活用した教育活動に取り組むなど、オンラインの積極的活用・定着に取り組む。
- ⑧ 多面的・多角的な評価に取り組む、ルーブリックに基づく、観点別学習評価を実践する。
【学校評価：評価基準の明示(生徒)90%〔86.9%〕】
- ⑨ 生徒による授業評価(年2回)の結果等に基づき、

	<p>授業改善に取り組む。</p> <p>⑩ 教員の相互授業参観（年3回以上）や他校の授業見学等などにより、教員の授業力向上を図る。</p> <p>⑪ 記述力・論述力を測る定期考査を実施するとともに、定期考査問題の共通化を進める。</p>
<p>3 進路指導</p> <p>(1) 一貫した組織的な進路指導體制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部を中心とした3年間を見通した体系的な進路指導を行い、検証・改善を繰り返しながら組織的な進路指導を実践する。 ・進路指導部と学年が連携し、HRや学年集会等を通じて、意図的・計画的な情報提供・ガイダンス等を積極的に行う。 ・生徒と学習進路相談を年間に複数回実施し、進学希望・学習状況を把握する。また、高い目標をもたせ、目標を達成できるように計画的に進路指導を行う。 ・あらゆる場面を通じて、保護者に対する進路情報を積極的に提供する。 ・放課後・土曜日・長期休業中等の講習や補習を充実させ、基礎学力の向上、発展的な学力の充実を図る。 <p>(2) 国公立・難関私立大学受験の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学当初から進学に対する意識づけを行い、進路意識を高め、適切な進路決定を行わせる。 ・成績推移等の情報を共有し、担任・教科担当・部活動顧問等があらゆる場面で生徒を励まし、第一志望を貫くよう学校全体で支援する。 ・志望大学別学習法及び合格大学別在学中の成績の推移等のデータを在校生に早期に提供する。 	<p>① <u>データ分析に基づいた学習指導や進路指導により、学年分析会、模試分析会、出願検討会等を充実させ、高みを目指す進路指導を行う。</u></p> <p>② 進路講話、進路相談、オープンキャンパス、東京都立大学等との高大連携事業等を計画的に実施するとともに、充実を図っていく。</p> <p>③ 卒業学年の担任団、新3学年の担任団及び進路指導部で年度末に進路指導引継ぎ会を行う。</p> <p>④ 進路講演会、学年集会、二者面談・三者面談、出願検討会、授業等、あらゆる機会を捉えて、難関校に挑戦する高い志を抱くように支援する。</p> <p>⑤ <u>保護者会において、進路情報の提供を行い、保護者の受験に対する意識を高めるとともに、保護者面談を実施（各クラス年1回以上）することにより、家庭の進路希望・学習状況を把握し、保護者と協力して、学習指導・進路指導を行う。</u></p> <p>⑥ 進路指導部、学年による「進路だより」を月1回以上発行し、生徒・保護者の啓発、情報提供を行う。</p> <p>⑦ 進路指導部・講習委員会が中心となり、土曜特進講習、夏の学校、春の学校、実力テスト（各学年）、朝・放課後の補習講習、土曜講習、夏冬春季講習、特別講習等の実施に向け、早期の計画の策定及び生徒への周知を行い、学習する集団を形成する。また、各教科で年間計画を作成し、負担が偏らないように組織的・計画的に実施する。</p> <p>【学校評価：必要な補習・講習の開講（生徒）90%〔87.2%〕】</p> <p>【講習年間人3講座程度】</p> <p>⑧ 外部機関と連携した教員の指導向上及び生徒の学力向上に向けたきめ細やかな指導を行う。</p> <p>⑨ 安易に現状の学力に見合った進路を選択し、受験科目を減らすことのないよう全員で支援する。</p> <p>【共通テスト5教科7科目受験者150人〔104人〕】</p> <p>【共通テスト総合得点率80%以上、受験者の10%以上〔3.8%〕】</p> <p>【現役国公立大学合格者80名〔52名〕】</p> <p>【現役国公立・難関私立合格者160名〔126名〕】</p>
<p>4 生活指導</p> <p>(1) 規範意識や公共心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都立高校生活指導指針を踏まえ、「時を守り、場を清め、礼を正す」をスローガンにして、日々の教育活動を通じて、公共心を育み、規範意識を高め、社会人としての自覚と責任感を涵養する。 ・TPOに応じた服装・頭髪・立ち居振る舞い・言葉遣いができるよう教師自ら率先垂範して指導する。 	<p>① HR活動、学年集会や全校集会等を通じて、「規範意識や公共心を育成」「思いやりの心といじめを許さない雰囲気醸成」「命の教育の推進」に取り組む。</p> <p>② 基本的な生活習慣を確立させるとともに、「遅刻指導」「チャイム始業・チャイム終業」「挨拶の励行」を徹底する。また、交通ルールを守らせ、とくに登下校の際のマナー向上を図る。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止（未然防止・早期発見・早期対応）や思いやりのある生徒を育むため、学校いじめ対策委員会と学年が連携を図って、いじめ防止に取り組む。 ・学年・生活指導と連携し、継続的・段階的に授業規律の徹底を図る。 ・「SNS学校ルール」に基づき指導を行い、いじめ等のトラブルや犯罪に巻き込まれないようにするとともに、学習への悪影響を防ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ③ いじめのアンケートを年3回実施し、早期発見に努める。いじめが認知された場合には、学校サポートチームと連携し、対応に当たる。 ④ 人権意識を高め、被害者・加害者とならないよう指導する。また、「SNS家庭ルール」作成に向けた保護者への啓発を行う。 【学校評価：適切な生徒指導(生徒)80% [80.2%]】
<p>5 健康づくり等</p> <p>(1) 健全な心身を育む取組、教育相談機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び教職員が、日々の健康観察を行い、3密を避け、手指消毒、マスク着用を励行し、新型コロナウイルス感染防止を徹底する。 ・命を大切にする教育を推進するため、企画調整会議、生活指導部、教育相談委員会、スクールカウンセラーが、連携を密にした組織的な指導を行う。 ・スクールカウンセラーと連携した教育相談を行う。また、専門医や必要に応じて外部機関を活用し、多様化する生徒の課題に対応し、生徒の心身の悩みに寄り添った指導を実践する。 ・特別な支援が必要な生徒に対して、スクールカウンセラー、外部機関、保護者との連携を図り、ケース会議等の開催を通して支援を行う。 ・「TOKYO ACTIVEPLAN for students」を参考にして、早期から基礎体力向上に取り組み、生涯にわたりスポーツに親しむ心と体を育てる。 <p>(2) 校内美化への取組、防災教育・安全教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境教育及び持続可能な社会の発展に向けた教育を通して、ゴミの分別・削減、節電を推進する。 ・地域と連携した防災訓練、避難所設営・運営訓練などの体験的・実践的な訓練を通して他者や地域の安全を支える能力を身に付けさせる。 ・公共の精神を高め、公共スペースの清掃や整理整頓に自発的に取り組むとともに、交通マナーを守り、通学路における譲り合いのできる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① コンディションレポートを導入、また登校時やホームルームにおいて、生徒の健康状態などの様子を観察し、日常的に声掛けを行う。 ② 学校における自殺予防教育を推進させるため、「SOSの出し方に関する教育」を推進する。 ③ <u>スクールカウンセラーと連携し、特別な支援が必要な生徒に対する支援を行う。また、1学年を対象とした全員面接を7月までに実施する等教育相談を充実させる。</u> ④ 発達障害のある生徒に対する支援方法について、年間1回程度、校内研修を実施する。 ⑤ 体育の授業や特別活動、部活動などを通じて、基礎体力の向上に向けて計画的に取り組む。 ⑥ 教室・廊下・特別清掃区域の清掃を徹底し、日々、校内美化に努める。 ⑦ 避難訓練、救命講習などの体験的な訓練及び防災ブック「東京防災」、防災ノート、防災講演会などを通して、自助・共助の精神を醸成し、地域社会のリーダーとして活躍できる人材を育成する。また、原則として1学年の1学期中に「東京マイ・タイムライン」を活用した指導を行う。
<p>6 特別活動・部活動</p> <p>(1) 特別活動・部活動を活かした人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や部活動等を通して、「自主・自律」「文武両道」「伝統と創造」の精神を涵養し、リーダーとしての人間力を育成する。 ・学習活動と特別活動（部活動・学校行事等）の両立ができるように生徒の自律心を養うとともに、適切な指導・助言の下、生徒の主体性を育成する。 ・主体的に部活動や学校行事に取り組みせ、充実した高校生活を過ごさせることにより、自信と愛校心を高める。 ・部活動では、高い目標を設定し、困難な場面を乗り越える力の育成に努め、達成感を体験させることで、生徒の自信や自尊感情を高める。 <p>(2) 指定校事業の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒に90年余の歴史の継承者であることを自覚させるとともに、様々な教育活動を通して生徒の自己肯定感を高め、生徒に愛校心と誇りを育てる教育を実践する。 【学校評価：学校目標の伝達(生徒)80% [70.6%]】 ② 「切替えと集中」により、限られた時間を有効に活用する姿勢を身に付けさせる。学業と部活動・学校行事の両立に向けた努力を継続させるための支援を全教員で行い、心身ともにたくましい人間を育成する。 【学校評価：学習と特別活動の両立(生徒)85% [83.3%]】 ③ <u>生徒の主体的活動を支援し、ホームルーム活動・学校行事・委員会活動・部活動等の活性化を図る、また、協働の大切さや仲間と助け合いながら事を</u>

<ul style="list-style-type: none"> ・「文化部新設置推進校」として、「とうきょう総文2022」の成功に向けて文化部活動の充実を推進する。 ・「東京都国際交流リーディング校」「海外学校間交流校」として、国際理解教育を推進する。 	<p><u>成し遂げる喜びなどを経験させ、コミュニケーション能力の育成し、生徒に成就感・達成感を享受させる。</u></p> <p>【部活加入率 90%以上】(生徒) [87%]</p> <p>④ 「文化部新設置推進校」として、バトントワリング部門が指定を受け、部活動の推進を図るための校内体制の整備を行い、年間活動計画に沿った活動を行う。</p> <p>⑤ 国際理解教育として、海外語学研修、長期短期の留学生の受入、次世代リーダー育成道場を活用した留学派遣、海外の学校との交流を推進する。また、各種交流活動や海外語学研修等において互いの文化について交流ができる生徒を育成する。</p>
<p>7 募集・広報活動</p> <p>(1) 広報活動の充実と募集対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校見学会、学校説明会等の内容を充実させ、中学校訪問、塾訪問、各種説明会等に積極的に参加する。 ・Web ページや部活動・学校行事及び本校の特色を紹介する広報誌による情報発信に注力し、広く都民に本校の教育活動を積極的に発信する。 	<p>① 中学生・保護者に本校の教育活動の周知のため、学校説明会、学校見学会、部活動体験、授業体験、出前授業、中学校訪問及び塾訪問等を積極的に実施し、募集・広報活動に努める。全教職員体制で積極的に広報活動を展開し、文化祭等の来場者数を増やし、応募倍率の向上を図る。</p> <p>【外部の説明会、中学校・塾訪問等、年間 3 回以上】 【学校説明会参加人数 1300 名 [917 名]】</p> <p>② 中学校訪問・塾訪問のマニュアルを作成し、中学校や地域に対する募集・広報活動の改善を図る。また、訪問の際には、中学生や保護者のニーズ及び本校に対する評価に関する情報を収集し、募集対策や教育活動の改善に反映させる。</p> <p>【推薦に基づく選抜 2.0 倍 [1.84 倍]】 【学力検査に基づく選抜 1.4 倍 [1.23 倍]】</p> <p>③ <u>Web ページの刷新、公式 Twitter の導入を検討する。</u></p> <p>④ 広報誌の発行回数・部数を増やし、配布先を広げる。入試倍率の向上に努める。</p> <p>【Web ページ等更新 240 回以上 [223 回]】</p> <p>⑤ 中学生部活動体験・高校授業体験、出前授業を積極的に推進し、本校の教育活動を周知に努める。</p> <p>【年 1 人 1 回以上】</p> <p>⑥ 塾対象の説明会を周知し、参加者数の向上を図る。</p> <p>【70 名 [66 名]】</p> <p>⑦ 全員で積極的に広報活動を展開し、文化祭等の来場者数の増加を図る。</p> <p>【4000 名 [一昨年度 3681 名]】</p> <p>⑧ 学校説明会等の動画を公開し、説明会に参加できなかった中学生・保護者の便を図る。</p>